

令和6年 第1予算審査特別委員会討論要旨

◎市民ネットワーク

市民ネットワークを代表し、第1予算審査特別委員会に付託されました議案第1号 令和6年度滝川市一般会計予算のうち、修正案を除く予算並びに関連議案全てを可とし、また修正案を可とする立場で討論いたします。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、1年がたとうとしておりますが、世界の様々な地域における紛争の収まる気配がありません。その影響による物価高騰やエネルギー高騰など市民生活も厳しく、地方都市においては経済環境も厳しい中、理事者、職員の皆様の努力により新年度予算を作成されましたことに敬意を表します。以下、若干の意見を付して討論といたします。

歳入においては、大幅に減となったふるさと納税の今後の取組について、次年度以降は総務省の見直しが検討されているようですが、本市にとって安定した返礼品の開発が急務と思われます。財源の一助となることから、返礼品の開発に力を入れていただきたいと思えます。

歳出においては、駅周辺整備に要する経費について個別施設計画を含め事業実施に対し優先順位に疑問があり、また市民の財産を活用するこの事業を進めるに当たり、将来の財政不安や十分な市民意見が反映されているとは思えないことから、今後の進め方を十分審議されることを望みます。滝川市の将来を見据え、滝川市にとって何を最優先とし、予算執行しなければならないのか十分検討していただくことを希望し、市民ネットワークの討論といたします。

◎新 政 会

新政会を代表して、第1予算審査特別委員会に付託されました議案第1号、令和6年度滝川市一般会計歳入歳出予算案及び関連議案第14号から第16号まで及び第19号、第21号、第22号に対して認定を可とし、修正案を否とする立場で要望、意見を付して討論いたします。

令和6年度滝川市一般会計予算案は、国のふるさと納税に関する返礼品の厳格化により寄附額の大幅な減少予想や新型コロナウイルス感染症対策費の終了など厳しい財政状況の中、駅周辺整備事業など将来の滝川市にとって大いなるスタートを切る予算編成を決断した理事者に対し、敬意を表します。

歳入に関しては、ふるさと納税額を挽回するために、引き続き首都圏でのPR活動はもちろん、滝川関係者及び団体、企業にも細かくPRを実施されたい。北海道ブランドを押し出した魅力的な返礼品開発に、より一層の努力をしていただきたいと思えます。また、企業版ふるさと納税にも力を注いでいただきたい。

歳出に関しては、総務費、駅周辺地区再生拠点整備基本計画策定は、長年の市民要望であり、今後様々な意見を集約して、使いやすくコンパクトであり、低予算な計画策定を期待します。この基本計画は、単純に一つの建物建設ではなく、駅前商店街やベルロードに人が集い、小さいながらもまちがにぎやかになる将来を見据えた起爆剤であります。文化団体や音楽団体など、施設完成を待ち望んでいる多くの市民たちに一年でも早く建設することを要望いたします。

民生費、児童センター等への空調設備工事の早期予算化や子育て短期支援事業等、保護者のために新しい施策を導入していることを評価します。新年度も高齢者、障がい者の立場に立った施策運用を心がけていただきたい。

商工費、市内事業者に対する重要な施策の店舗リノベーション補助金を予算化しなかったことは、新規開業や業態変更など、やる気のある事業者の足を引っ張るものであり、市内事業者育成に対する市理事者の重要度が低いのは大変残念です。年度途中でも要望者が多数いれば補正予算をつけることを要望します。

教育費、新小学校基本構想策定委託は、全市的な学校配置計画との連携が大事であり、併合される可能性のある学校には余裕を持った告知、説明を実施されることを要望いたします。

以上、新政会の賛成討論といたします。

◎れいわ新選組

私は、第1予算審査特別委員会に付託されました令和6年度予算案、議案第1号、14、15、16、19、21、22号までの件につきまして全ての議案を可とし、議案第1号の修正案を否とする立場で討論いたします。

初めに、物価高騰等の厳しい社会情勢の中、これ以上の人口流出と少子高齢化を食い止めるため、特に子育てや教育の新規事業予算の増額に関しまして、子育て当事者の議員として市理事者並びに職員の皆様に感謝と敬意を表します。令和6年度は、既存の公共施設の老朽化による補修や解体が重なっていることに加え、新規子育て支援事業の計画の策定や教育施設の空調設備設置、駅前再開発の準備、中央バスの撤退を受けてのバスの購入等、どれもこれも本市の存続をかけた大変重要な事業が待ち受けていると認識しています。そんな幾つもの大きな山場を迎えるに当たり、新電力会社に替えることで予算全体で約36パーセントもの光熱費を節約できるようになると聞きまして、その分市民サービスが向上するのではと1つ大きな希望を感じました。これまでは緊縮財政であったかと思いますが、コロナ禍を明けてもうすぐ1年を迎える来年度は、健康で、優しく、安全に暮らせるまちの未来を見据え、市民サービスの向上やコンパクトシティー実現に向け、積極財政に切り替えていく絶好の機会であると大変期待をしているところです。以下、若干の意見を付して討論といたします。

総務費、ふるさと基金28億8,727万1,000円の見込みについて、これまでコツコツと積み立ててきた大切な財源であると考えます。ふるさと基金は、ただためておくということではなくて、予定している個別施設計画に基づく公共施設設備の財源として有効活用していくとの答弁を受け、大変頼もしく感じました。市内経済を活性化するためにも使いどころやタイミングを見極めつつ、これからもより多くの市民のために積極的な活用を求めたいです。老朽化している公共施設の解体や補修は、市の治安はもちろん景観や人の流れに大きく影響するものです。まずは安全性の確保を第一に、柔軟な財政出動で可能な限り予定どおり実施できるよう励まされたいと考えます。中空知自立圏構想の中心市である滝川市の役割は、大変大きいものと感じております。中空知地区での存在感を増せるよう、引き続き10市町と連携、協議を深め、さらなる政策推進及び発展を期待します。

民生費、予算案の概要の基本方針に子育て世帯が真に必要とする施策を総合的に推進するとありますように、この少子高齢化、多死社会とまで言われる昨今、地方のまちを発展、存続させるためには絶対に外すことができない要が子育て支援であると私は認識しています。これからは子育て応援課を中心に、市全体が一丸となってこの問題に立ち向かってもらいたいですし、滝川市子ども計画の策定には大きな期待を持っています。20代のうちに3人子供を産んだ私も傍聴どころか会議にぜひ参加したくなるぐらいです。これから子育てのまちを目指すのであれば、減少していた人口をV字回復させた地方自治体の事例を参考に、児童手当の拡充や保育料の減免等、国の施策の上さらなる市独自の事業を取り入れるなど、人口減少を食い止めることを目標にするのではなくて、人口増加のためにできることは何でもするという諦めない気持ちが必要ではないでしょうか。計画の策定と併せ、今後の子育て政策に対する大胆な積極財政とさらなる子育て環境の充実、強化を期待したいと思います。

衛生費、産後ケア事業の市内での実施についてですが、国のガイドラインに示された要件を満たす設備、施設がないこと、人材の確保が課題であるということを受けまして、来年度すぐの実施は難しくとも、この2つの要件を満たせば決して不可能なことではないと認識しています。私の友人でフリーランスの助産師をしている人からは、産後ケア事業で非常勤職員として道内自治体に雇われているというお話やホテルを借り上

げて産後ケアホテルをつくったという民間事業者の話も聞きました。市内での産後ケア実施に向けた前向きな協議を重ねることは、将来の移住定住促進につながると考えています。ぜひ各所管の枠を超えて検討されるよう求めます。

教育費、教育施設に冷房設備を設置することで電気使用料の増加及び光熱費の増額を心配したのですが、周辺自治体の情報からさほど使用料は上がらないとのことで安心しました。子供たちの学習環境の整備等、これからも尽力されたいと思います。

最後に、農林業費、鳥獣被害対策実施隊の待遇についてですが、市民の生命、財産を守るための大切な役割であると考えています。危険を伴う業務のため補償はあるとのことで安心しましたし、あわせて職員増員増強の必要性も感じました。これからも市民が健康で、優しく、安全に暮らせるまちを目指し、邁進されたく思います。

最後に、私は何分初めての予算委員会ということで、3日間聞き苦しい点多々あったかと思いますが、皆さんの心ある答弁に感謝を申し上げます。

以上をもちまして討論といたします。

◎21 フォーラム

21 フォーラムの柴田でございます。第1 予算審査特別委員会に付託されました令和6 年度一般会計予算案並びに関連議案を可とし、修正案を否とする立場で、以下若干の意見を付して討論いたします。

護現場はもとより、様々なサービスを提供しなければならない現場があちらこちらで崩壊しようとしています。本予算においても、市内バス路線の継続、維持に向けた対策が語られ、農業環境の悪化や空き家対策の推進など、立ち止まることのできない課題が指摘されております。このような困難な状況下にあって、市民の命と暮らしを守るため、本令和6 年度予算を適切に執行し、安心のまちづくりを市民に届けられるよう職務に精励されんことを強く要望させていただきます。

以上を申し上げ、賛成討論といたします。